

学 部	文学部
学 科	
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・言語の学習を中心とする伝統ある人文学を学ぶことができ、また現代社会の変化に対応するという点にも留意して、体系的なカリキュラム編成や授業科目配置を行う。 2. それぞれの学科において、ポリシーに沿ったカリキュラムを体系的に編成し、適切な授業科目を配置できるよう、学部の立場からも配慮する。 3. 各学科に置かれた多数の科目は学部の教育資源であるともとらえ、学生の科目選択において自由度の高い本学の制度を生かして、学生が自学科の科目のみならず他学科の科目も必要に応じて履修できるよう配慮する。 	

学 部	文学部
学 科	日本語日本文化学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しい日本語と奥深い日本文化を基礎から幅広く学び、将来に役立つ資格・技能の取得をめざし、3つのコースを設ける。 2. 視聴覚コミュニケーションコースでは、コミュニケーションに関する知識と教養を深め、口頭表現や文章表現の能力を高め、コミュニケーション産業で必要とされる能力を身につける。 3. ホスピタリティコースでは、ホスピタリティに関する知識と教養を深め、さまざまな実習や視察、インターンシップ等を通してホスピタリティ産業で必要とされる能力を身につける。 4. 日本語日本文化コースでは、日本語・日本文学・日本文化についての知識と教養を深め、国語科教員・日本語教員として必要とされる能力を身につける。 	

学 部	文学部
学 科	英語文化学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の自律および批判的リテラシーを養うため、次の3つの科目群を設ける。コミュニケーションの英語を学ぶ「English Communication科目」、世界の英語圏の文化と社会を学ぶ「World English Culture科目」および英語を使って仕事をする技能を身につける「Professional and Career科目」。 2. English Communication科目では、世界に向けて英語で自己表現できる能力をつける。特に、英語コア科目群は、コミュニケーション能力を身につけるために設ける。1・2年次は集中的に英語を学ぶ必修科目（週5回）、3・4年次はテーマごとの選択必修科目とする。 3. World English Culture科目では、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの国々に限定されない、より幅広い意味の「英語圏」の文化と社会を学び、グローバルマインドを培う。「文化」、「文学」、「ことば」、「メディア文化」および「教育」の5つのテーマに基づき、1・2年次の入門科目、3・4年次の研究科目を提供する。 4. Professional and Career科目では、英語を活かすキャリアを目指し、必要な知識やスキルを身につける。「ビジネス」、「英語教育」、「エアライン」、「児童英語」および「ガイド」の5つのキャリアエリアをサポートする選択科目を、1年次から4年次まで提供する。さらに、英語能力資格試験（TOEICなど）のサポート科目を設ける。 5. これらの3つの科目群に加え、上級の英語コミュニケーション能力（TOEIC800点以上など）を目指す「アドバンストコース」、子どもに英語を教えるための「児童英語教員養成プログラム」と、エアラインおよびホスピタリティ関係のキャリアを目指す学生のための「エアラインプログラム」を設ける。 6. 以上のカリキュラムの実効性を高め、学生の自律性を養うため、学習アドバイザーが常駐するself-access centerを中心に、学生個々に対しアドバイスやその他のサポートを行う。 	

学 部	文学部
学 科	多文化コミュニケーション学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>グローバル化が進む中、異なる社会で暮らす人々の異なる文化、異なるものの考え方を理解し、世界で共に暮らしていくためのコミュニケーション力を専門性の高い3分野から修得していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 語学力 6か月から1年間、提携大学での長期海外留学を目指して、実践的語学力と自立心を養う。 2. 国際教養 英語とその他の言語を実用重視の学びで鍛え、国際教養豊かな人材を育てる。 3. 行動力 活動への参加を通し、社会貢献プロジェクトを動かすスキルと世界を舞台に活躍できる能力を身につける。 	

学 部	文学部
学 科	メディア表現学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. イメージを形象化して伝達するための思考方法、及びコンピュータなどを利用した表現技法を学ぶことができる。 2. グラフィックデザイン、写真、アニメーション、映画、広告などの視覚文化領域に関する基礎的な知識と制作方法を学ぶことができる。 3. 視覚メディアをめぐる文化的社会的環境の変化に対する理解と批判能力を身につけることができる。 4. 「基礎」、「発展」、「応用・発表」に区分して段階的に習熟させる教育課程を採用し、理論と実践を有機的に連結させ、ゼミ活動を重視した実践的教育を行うことができる。 5. 学内に設置したギャラリーなどの展示空間において、作品、研究成果の発表を行い、評価を他者に求めるべく能動的な表現活動ができる。 	